

特集
雑誌

自由国民

昭和卅一年五月十日発行
昭和廿四年四月十日国鉄
特別扱承認雑誌第九七四号

臨時増刊

自由国民社
発行

現代用語 の基礎知識

1956年度編集

今日の時局を理解する用語集

政治用語(A)・中村 哲	金融用語・山口 茂
政治用語(B)・辻 清明	貿易用語・上坂 西三
法律用語・鶴 銅信成	株式用語・野田 全治
外交用語・横田喜三郎	農業用語・近藤 康男
軍事用語・高木 惣吉	労働用語・大河内一男
経済用語・高島 善哉	共産用語・宮川 実藏
財政用語・鈴木 武雄	重要数字・池田 雄藏

今日の文化を理解する用語集

哲学用語・高桑純夫	歴史用語(B)・西岡虎之助
宗教用語・岸本英夫	地理用語・辻村 太郎
教育用語・宮原誠一	文芸用語・本多 顕彰
心理用語・戸川行男	美術用語・今泉 篤男
歴史用語(A)・林 健太郎	音楽用語・吉田 秀和

今日の科学を理解する用語集

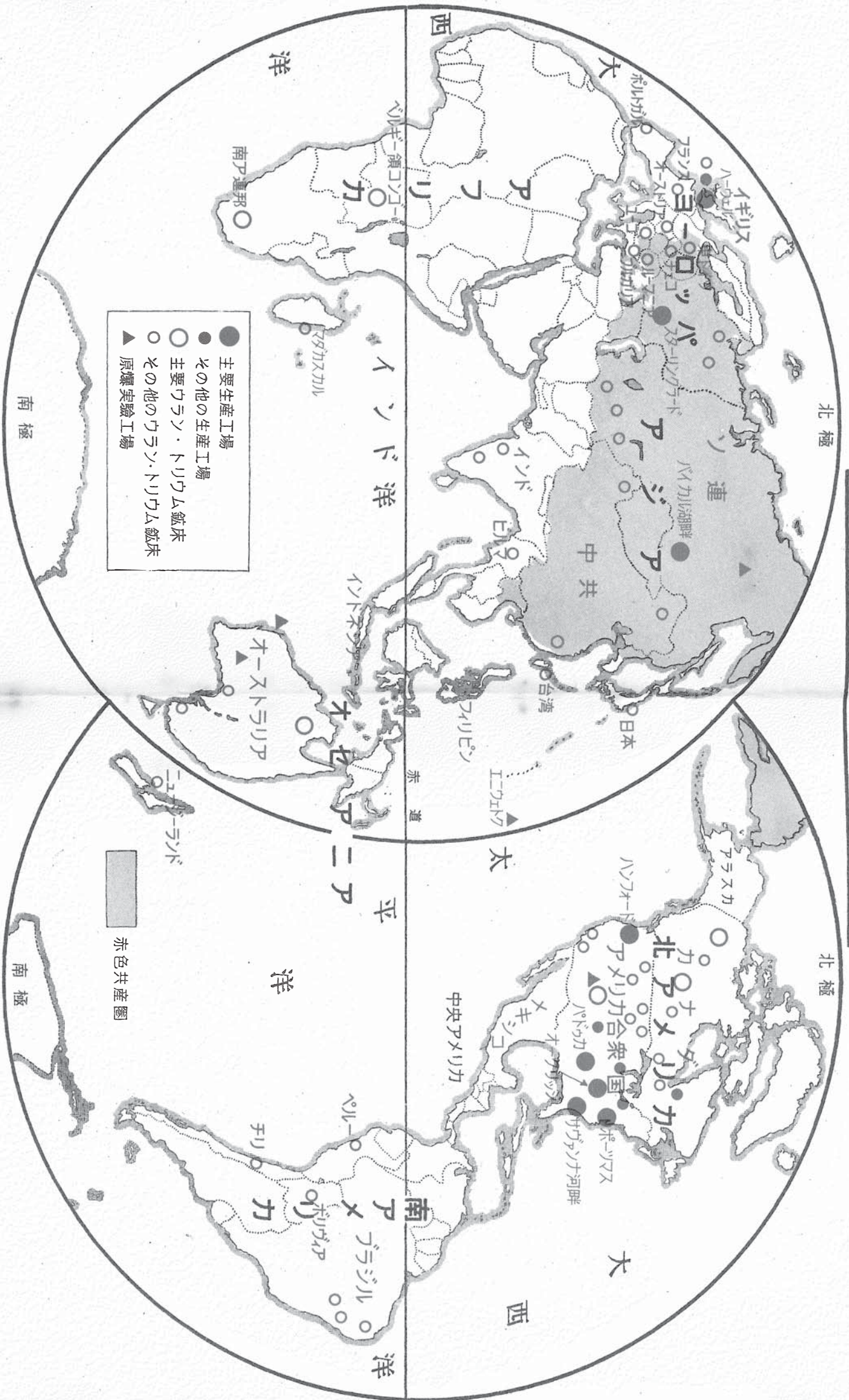
工学用語・辻 二郎	医学用語・高橋 吉定
物理用語・茅 誠司	薬学用語・宮木 高明
化学用語・朝比奈貞一	性科学用語・宮本 忍祐
生物用語・湯 浅 明	天文用語・萩原 雄祐
考古学用語・江上波夫	気象用語・和達 清夫

日常生活の常識としての用語集

風俗用語・大宅 壮一	スポーツ語・織田 幹雄
映画用語・津村 秀夫	野球用語・内村 祐之
演劇用語・山田 肇	趣味用語・矢野 目源一
新聞用語・新井 正義	家事用語・今 和次郎
ラジオ用語・春日 由三	モード用語・桑 沢 洋子
各国の行事・井 上 勇	外来語事典・吉田 健一

現代常識の最高水準・10,000語・収載

世界原子力地図



新しい外交用語

横田喜三郎

日ソ関係

日ソ会談(交渉)

日本とソ連との国交正常化をはかるために、五五年七月一日から、ロンドンで開かれている松本・日本全権とマリク・ソ連全権との交渉。日本は五一年九月六日のサンフランシスコ平和条約で、ソ連とその他一部の国を除く、連合国と国交を回復したが、当時ソ連は、この条約をポツダム宣言、ヤルタ協定に違反する不法なものとして承認せず、グロムイコ提案(その項参照)を出し、その後この攻撃してきた。ところが五三年三月のマレンコフ政権以来、日ソ国交回復、さらには講和に含みをもたせた呼びかけをくりかえし、五四年一〇月一二日の中ソ共同宣言では、日本を攻撃するこ

となく、むしろ日本が外国の利益に奉仕するような安保条約その他の協定に束縛されていることを同情するにいたつた。一二月一四日には、この呼びかけをさらに具体化し、モスクワ放送が「日本はアメリカと手を切らなくても中ソ両国と講和し、取引できる」とのべ、二日後にはモロトフ外相が「日本が日ソ両国関係正常化の方向に向つて措置をとる意向があれば、ソ連はこれを實現するため實際的措置の問題を討議する用意あり」といい、また、サンフランシスコ条約が対日関係調整の障害にならないことを明らかにした。さらに、五五年一月二五日の、ドムニツキー書簡の鳩山首相への伝達は、日ソ交渉を静から動に移し、累次の交渉場所について接衝の結

果、ロンドンがえらばれて会谈開始となつたのである。(昭和三〇年一〇月現在)

ドムニツキー書簡

日ソ国交調整具体化に関するソ連政府の意向を伝えるために、ソ連駐日元代表部首席ドムニツキー氏が、五五年一月二五日鳩山首相に手渡した書簡。書簡は、日ソ間の懸案である戦犯、領土、漁業などの具体的な問題についてはふれず、(1)ソ連は、日ソ関係正常化のためにとりうべき措置について意見を交換したいこと、(2)交渉の場所はモスコウか東京、(3)そのためにソ連は代表を任命する用意があること、(4)日本の意向を知らせ、と

全権をして提案させたソ連の修正平和条約。その内容は、(1)日本は満洲、台湾、澎湖諸島その他の群島に対する中共の主権をみとめ、一切の権利を放棄する(台湾の国府帰属に反対、中共の主権承認)、(2)南樺太、千島列島のソ連主権をみとめる(ソ連帰属の主張)、(3)現在、米国の国連信託統治下にある旧日本領、琉球、小笠原などの日本主権をみとめる(琉球、小笠原の米国管理に反対)、(4)日本領土内の外国軍隊の駐留と基地保有を許さない、(5)日本は対日戦に参加した国との連合ないし軍事同盟に参加しない(日米などの軍事同盟に反対)、(6)陸海空総兵力を一九万五〇〇〇とする日本再軍備規定、(7)宗谷海峡、根室の日本海沿岸、津軽、対馬両海峡を非武装化し、日本海に隣接する諸国の軍艦にだけ通過を許す(ソ連軍艦の自由航行をみとめ、米軍艦にはみとめない)などである。

グロムイコ提案

サンフランシスコ平和会議で、同平和条約案に反対して調印を拒否したソ連側が、グロムイコ

日米関係

日米共同声明 五五年八月二十九日から三日間、ワシントンで、重光外相とダレス國務長官を中心として行われた日米会談の成果を発表した声明文。とくに、日本の防衛力増強に関し、海外派兵について、日本側がアメリカに言質を与えたのではないかと問題とされた。すなわち、一方的な安保条約を日本側の望む対等条約に切りかえるためには

(1)日本ができるかぎり祖国防衛の第一義的責任を負う (2)日本は西太平洋の安全の確保に貢献するよう努力する、という二つの条件を充すことが先決だとするのがそれである。同声明はほかに、対米債務処理、防衛分担金漸減の一般方式の確立、米国管轄下の戦争犯罪人の早期釈放が討議されたとのべている。

岡崎・ラスク議事録

一九五二年の行政協定締結のときの岡崎外相とラスク米特

別代表との締結のための会議議事録。五五年度の防衛分担金削減交渉にあつたつて、同議事録が問題となつた。これには、「日本が防衛力の漸増に責任を負つて経費を増加することがあるので、そのときは分担金の減額を考慮してほしい」との日本側発言に対し、アメリカ側の「考慮はするが米軍の費用もなかなか多い」という意味の含みのある答えがのつてゐる。

日米艦艇貸与協定 五四

年五月一七日、日米間に結ばれた千五百トン以上の大型艦艇貸与のための協定。この種の艦艇はMSA協定(一五〇〇トン以下の艦艇に適用)の対象外であつたために、米国公法第一八八号(極東友好諸国に駆逐艦および小艦艇二五隻を貸与する権限を大統領に与えたもの)にもとずき、とくに協定したものの。

日米投資保証協定 五五

年三月八日、MSA協定(日米相互防衛援助協定)とならん

で日米間で調印され五月一日発効した「投資の保証に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定」。アメリカ政府が対日投資促進のため一定の対日投資者に対して損失保証を行うのに必要な措置を両国間で定めたもの。

在米資産返還交渉

サンフランシスコ平和条約で、賠償と相殺して請求権を放棄した六〇〇〇万ドルにのぼる在米日本資産の返還協議のため日米交渉。もともと在外日本資産についてはサンフランシスコ条約で処分権はこれを管轄する諸国に委ねることをとりきめたので、返還を請求する権利が日本にはなく、返還の意思表示を伝えるにすぎない。たまたま、在米資産については、同じ条件にあるドイツ資産の返還がジャーマン・ロビー(米政界の親独派)とウォール街の圧力によつて促されたために、日本はこれに便乗する形となつた。五五年三月から協議が開始され、五

月一〇日ドイツ資産と同様、個人財産に限り一人一万ドルを限度とし、返還がきまつたが、財産の大半を占める「法人財産」は除外された。

講和その後

サンフランシスコ体制

一九五一年九月にサンフランシスコで日本が連合国、とくに自由主義諸国と結んだ「対日平和条約」を根幹にして、これにつらなる「日米安全保障条約」、「日米行政協定」、「日米友好通商条約」、「MSA協定」などを骨組みとする日本の軍事基地化のための一連の国際的とりきめによつて構成される体制。

日・イエーメン修好条

約 五五年五月二七日両国間に仮調印された国交を開くことをきめた条約。両国間には戦前から国交関係がなかつたが、こんどの修交条約では両国間の永久的平和および友好関係の維持、相手国の独立と領土保全の尊重、外交使節お

よび領事の交換、通商航海条約締結前における国民および船舶の待遇、技術交流および専門家の交換などを規定しており、これによつてイエーメンとの国交の途がはじめて開かれることになつた。

賠償問題

ビルマとの賠償協定

ビルマに対する賠償および経済協力協定は、日本・ビルマ平和条約とともに、一九五四年九月調印、五五年四月発効した。賠償の内容は総額二億ドル、支払期間一〇年であるが、今回の賠償協定の特色は、サンフランシスコ平和条約に規定されたいわゆる役務賠償（別項）の原則をふみこえて生産物の提供も認められていた点と、賠償とは別に日本側から総額五千万ドルの対ビルマ投資が行われるという経済協定がだき合わせ的に締結された点である。五千万ドル

の投資は、日本ビルマ合併会社を設立することにして、それへの日本側民間資本の投資として使われるものである。

日比賠償問題 五二年二月の津島使節団のマニラ会谈以来、数次の会谈を経て、ようやく終幕を迎えようとして

いる日比間の賠償交渉。当初の比側要求は総額八〇億ドルの一五カ年払い。日本は能力の限度外として結論をえなかつたが、五三年三月「沈船引揚に関する日比中間賠償協定」だけが調印された。五四年四月になり支払総額四億ドルという大野・ガルシア覚書ができ、これにもとずいて、村田全権団が派遣されたが、この交渉も今一步で挫折。五年鳩山内閣の成立とともに交渉再開の気運がようやく動き、まず三月―六月の日比専門家会議の結果、中川・ラヌーサの合意議事録の仮調印となり、八月の比の八億ドル賠償提案が現在交渉の基礎とされている。その内訳は、資本

財によるもの五億ドル、現金によるもの二千万ドル、役務によるもの三千万ドル、長期開発借款二億五千万ドル（八月一七日外務省情報局発表）。

大野・ガルシア協定

一九五四年四月一日に日本の大野公使と比のガルシア外相とが署名した日比賠償の原則に関する覚書。内容は、(1)日本の支払うべき賠償総額は四億ドルであること、(2)支払期間は一〇年、但し日比どちらかの要請によりさらに一〇年の延期ができること、(3)賠償は比の経済計画に合致するような目的にそい、最大の効果をあげるよう実施すること、(4)このように実施される賠償により、比に一〇億ドル相当の経済価値を生じること、などの条項を含む。この覚書にもとずいて日本の村田全権とガルシア外相が正式交渉に入つたが、比上院議員の同覚書に対する反対により交渉は打切られた。

中川・ラヌーサ協定

日比賠償問題について、両国専門家が五五年三月から六月にわたつて行つた会議の議事録を日本側団長中川外務省アジア局長と比側団長ラヌーサ公使が仮調印したもの。この合意議事録は、比が日本から賠償をうける場合に希望する各種の品目をきそとし、これに対する日本側の資料や見解をしるしている。賠償総額や支払期限については目下解決が困難なので、こうした根本問題を一応、切離して賠償の品目に関する技術的な検討だけを行つたもので、日比賠償交渉の中継ぎの意味が強い。

日・タイ特別円協定

五五年七月九日にバンコックで調印された日本の「特別円」債務支払に関する協定。一種の戦争賠償とりきめである。「特別円」とは、戦争中、日本がタイ国の物資を調達するために、タイ国の通貨を使用したのと同額の「円」を日本銀行に積立て、将来支払うこととされていたために生じた

限を中ソ兩國と日本との平和条約締結の時期とし、中共経済援助の具体策を示している点が注目される。アメリカ側は、この声明をまず、日本との関係において、そしてそれが中ソ兩國の新しい関係を規定した点において重視した。

米・中共会談 インドの

あつせんによつて五五年八月一日から二〇日までジュネーヴでジョンソン・米大使と王炳南・中共大使との間の諸懸案解決のための会議。会談に先立ち中共は抑留米軍飛行士一一名の釈放を発表、台湾海峡をめぐる緊張が緩和されたかにみえたが、釈放条件で折合わず、会議は停滞している。

(昭和三〇年一〇月現在)

バンドン精神 五五年四月のバンドン会議(アジア・

アフリカ会議の項参照)で打出された植民地主義反対と民族自決支持の精神。これは北阿の仏領モロッコ、アルジェリア、チュニジア民族主義独立運動の底流となり拡大する

勢をみせ、西欧植民地国家を脅かしている。なお、この諸国は米ソ両陣営のいずれにも属さず、中立第三勢力として団結する動きを示している。

米華相互防衛条約 台湾

中立化政策(一九五〇年六月の朝鮮動乱が起つたときに当時のトルーマン米大統領が米第七艦隊を台湾海峡に送つて、国府、中共双方の行動をけん制して台湾が動乱にまきこまれることを防ごうとした政策)がやめになつたすぐ直後の一九五四年一月二六日に米国と国府との間に調印された条約。前文と本文一〇カ条からなる。ある国が台湾を攻撃した場合に、これは米国の安全をも脅かすものとし、台湾と澎湖島を米国と国府が共同で防衛しようとする。ある国は中共をさすともいふ。ある国は中共をさすともいふ。これにより中共の台湾攻撃を断念させることを狙いとしたものである。なお、大陸沿岸の国府領有の金門、馬祖両島を共同防衛範囲に入れ

るかどうかは「将来の協定によつて決定」されることになつてゐる。

西 欧 の 情 勢

四大国巨頭会談(ジュネ

ーヴ会談) 五五年七月一八

日から二三日までジュネーヴのパレ・デ・ナシオンで開かれた米ソ英仏四国「政府首脳者会議」。午前は各国巨頭会談、午後は、各国外相会議が終始友好的な態度で行われ、具体的な成果はなかつたにせよ、将来の国際緊張緩和への大道を開いた。議題は、ドイツ統一、ヨーロッパ安全保障、軍縮、東西両陣営の交流の四つで、とくに、アイゼンハウアー大統領の四大国の軍事施設の「青写真」交換と空中写真撮影の許可、軍事情報の公開という劇的な提案、ブルガーニン首相の欧州安全保障構想の段階的漸進化の提案(参照・全ヨーロッパ安全保障体制)は見逃しえない重要性をもつてゐる。もとより両陣営の原

則的対立が氷解したわけではないが、この会談の成否は、むしろ今後の推移が決定しよう。討議の結果は、四巨頭の指令にしたがい、ドイツ統一、ヨーロッパ安全保障問題は一〇月の四国外相会議で、軍縮問題はまず、八月二九日から国連軍縮小委員会で検討されることとなつた。こうして、この会談は両陣営の交流の始めであつて終りでないことに充分の希望をつないだものである。

頂上会談 (Summit Conference)

五五年七月ジュネーヴで開かれた米ソ英仏四カ国政府首脳者会議を、国際政治の頂上における会議という意味で名づけたもの。(参照・四大国巨頭会談)。

ジュネーヴ精神 五五年

七月のジュネーヴの四国首脳会談は、冷戦の雪融けのため大きな希望を将来に託したがこの会談における諸国家の新しい和協力の雰囲気を見出し、デン英首相の発想からジュネ

各地に自発的な青年団が生まれ、この自主的なものがあり、この自主的なものがあり、その性格は、戦前の組織とまったく一変したものと、いつてよく、青年教育の官僚主義的統制には、つねに自主的に力強く抵抗している。五五年からは、市町村単位団の共同学習の成果をもちよつた青年問題研究大会をひらき、全国青年を一体として、新しい民主的社会的建設者たらんとするなかま意識をつくりあげつつある。

ジュニア・レッド・クロス (Junior Red Cross)

青少年赤十字、JRCと略称。学校での学級を単位として作られ、赤十字の精神にのっとり、心身の健全、社会奉仕、国際理解をふかめようとする目的をもつ組織。その活動は、学校での学習を社会化する方向でおこなわれる。

世界の教育

カウンティ・カレッジ (County College) バトラ

イ法によつて定められ、一九四八年から実施されたイギリスの勤労青少年教育機関。継続教育のローガンのもとに、全日制の学校へいけない一八歳までの青年全部に、一定期間、昼間授業により高等教育をうけさせる。そのため、各地方、雇用者、父兄などにたいし、その教育がスムーズにおこなわれるような環境設定の義務をおわせて、いちじるしい教育効果をあげている。

コムソモール (Komso-mor)

ソヴェトの共産主義青年同盟の略称。一五―二六歳の青少年を組織し、マルクシズム教育をほどこし、将来のよき共産党員たることを期待する。ピオニールの指導にあたり、また学校教育機関の運営にも代表を送つて参加している。

五年一貫制 一九五一年

はじめられた新中国の新学制。それ以前つづいていた小学校の初級小学四年、高級小

学二年という制度を廃止、七歳から五年間一貫した制度にあらためた。しかし、五三年の末、この制度が、経済建設のテンポとあわないところから、しばらく停止することになり、経済発展のテンポの早い都市、工鉱業地帯、および農村の完全小学校(初級、高級をあわせたもの)をまず第一段階として整備するようにきめられた。

時の話題

民編国営論 (教科書の)

現行の教科書検定制をやめ、編集は現在のように民間の手でやらせるが、その採択と販売とは国が管理しようという案。民主党の文教政策の一で、現政府が実施しようとしているもの。この案の背後には、大教科書会社の独占的意見が反映しているともいわれている。これによつて教科書のねだんが安くなり、転校などで教科書がかわるなどの不便を避けられるというが、

じつさいにはそんなに安くもなるものでもなく、むしろ無償配布を考へるべきであり、また、現行ですら教科書の内容が逆コース的な書きかえを強いられているのに、この案のようになれば一そうその度合が強くなり、ひいては、教科書が教育現場の実情を離れた、むかしのよう画一的、固定的なものになる危険が多いことが指摘されている。

カタカナ先習論

現在の学制になるまえまでは、国語教育はまずカタカナ文字を教えることからはじまつたが、六三制になるとともに、カタカナは日常生活ではあまり使われなくなっているから、余分な負担をかけるよりも、はじめからヒラガナを教えたほうがよい、ということ、カタカナは小学校低学年では教えないことになった。ところが、これにたいし、おにも心理学者のがわから、カタカナの方がヒラガナよりも分節化した文字構造をもつて

いるから、幼児にとつてはヒラガナよりも覚えいい、だからまずカタカナを教えて、子どもにコトバをなれさせるほうが、国語教育にたいしてプラスになるという意見が出されている。これをカタカナ先習論といっている。

格づけの内申書制 大学入試で進学適性検査の画一的実施は廃され、そのかわり、高校からの内申書を重くみるようにされたが、このばあい、内申書に五段階の格づけをして提出することが大学側からもとめられている。これを格づけ内申書というが、高校側がこれに応じないでいるため、まだ実行はされていない。

希望表示制 一九五五年度大学入試から、各大学の学部学科は、それへの入学希望者にたいし、高校在学中におさめておくべき教科目を、あらかじめ希望表示できるようならなつた。これは、高校生が高校在学中、かたよつた教科の選択をし、大学入学後、必

要な基礎知識をもちあわせていないことがあるのにかんがみためのであるが、これによつて、高校の教育課程が圧迫されるおそれもある。

WUS World University Service の略。国際学生奉仕団。 住宅と生活、健康、学習用資材、などに困つてい

る世界の窮乏学生に援助をあたえ、同時に国際的な相互教育をはかるうとする国際的學生組織。第一次大戦後、ドイツ、オーストリアの学生救済

のためになつた。第二次大戦の戦中戦後をつうじてその範圍が世界的になつた。本部はジュネーヴにあり、わが国でも、一九四八年、日本委員会

ができ、これを通じて援助をえている。たとえば、五五年川崎市にできた学生サナトリウム（風俗の同項参照）は、この組織をつうじての各国學生の寄付にあずかつたところが多いという。

学生健康保険 戦後學生生活の窮迫により、學生で健

康をわるくするものが多く、しかも悪化しても医者にかかれないう状況で、ゆゆしい問題とされてきた。そこで學生を健康保険に加入させてこれをすこしでもすくう必要があつた。ようやく一九五五年になつて、その氣運が具体

化し、五六年度から実施するみとおしとなつた。その特色は、大きい大学では學生健康保険会といつた法人格組織をつくり、小さい大学では國が保險者になり、大学がその事務を委任され運営するところにある。

新しい心理用語

戸川行男

精神衛生

肉体が故障を起すのと同様に、精神もまたしばしば故障を起す。したがつて、肉体の衛生が健康の維持に必要であると同じく、健全な生活の維持には精神の衛生が必要である。従来、精神衛生は精神病、神経症の予防を主眼としていたが、近頃はもつと広汎な分野が考えられており、健康な幸福な高い能率の生活を維持するための心理学的方法、欲求不満（フラストレーションの項参照）や精神葛藤やを未然に防ぎ環境適

応を容易ならしめるための心理学的方法、などの実践を総括し、精神衛生と呼んでいる。

臨床心理学

医学の技術によつて患者の病氣の原因を診断し治療を行いうるよう

に、心理学の理論と技術とによつて個人々の精神的な悩みや異常行動や異常性格や社会生活における故障やの原因を診断しその処置、治療を行うことができる。それは、たとえば産業事故を頻発する一人の工員の問題から、乳幼児の問題行動にまで及んでいる。

実効湿度 火災警報を発するばあいの基準になるもので、当日と前日、前々日の湿度を合わせ考慮に入れた湿度のあらわし方、木材の乾燥度の目安となる。

その他

彩雲 雲を形成する微小水滴によつて、太陽光線が廻折され雲が縁にそつて帯状に緑やピンクにいろどられる現象。高積雲に多く生ずる。

高層天気図 ラジオゾンデ(別項)の観測をもとにして、大気上層の気圧配置、天氣の動向をあらわすもので、ふつうは、八五〇ミリバール(高さ約一・五千米)、七〇〇(約三千米)、五〇〇(約五・五)、三〇〇(約九千米)ミリバールなどの等圧面天気図で、等高線、等温線、等露点線などのほかに観測地点のその高度における風向、風速を記入してある。日々の天気予報はもちろん、台風の進路予想や梅雨前線の消長を知るうえにと

くに重要である。

国際地球年観測 国際学術連合(ICSU)の企画に

より、一九五七年八月から一九五八年一二月までの期間に電離層、高層気象、地磁気、経緯度、太陽、宇宙線、夜光、極光などの地球物理的現象を世界各国の協力によつて地球全面で共同観測しようとするものである。以前は極年観測の名で呼ばれたもので、第一回は一八八二年八月から翌年の八月まで西極地方の気象、極光とそれに関連した現象の観測がおこわれ、一二カ国が参加し、第二回はそれから五〇年後の一九三二年八月から翌年八月まで行われた。今回は第三回で前回から二五年目であるが、近年急激に発達した地球物理の各方面の観測が全世界にわたつておこなわれることになつてゐる。また各国により南極探検の実施が合もこれに参加する計画をもつてゐる。わが国は第一回から

参加してきたが、今回も測地学審議会、日本学術会議が中心となつて計画をすすめて、多数的の関係機関が、この計画に全面的に協力することになつてゐる。

新しい風俗用語

戦後派風景

大宅壮一

人生雑誌

この種の雑誌

の教祖的位置にある柳出謙十郎氏にいわせると「立身出世主義とパチンコ、マンボのどちらにも行けない青年たち」の「真面目な悩み」の相談にのつてやるのが目的。人生手帖、葦、人生、弁論、若人など一〇数種だがいずれも五、六〇円と安い。やや左傾してゐるので「マルクスみかん水」(大宅壮一氏)の別称もある。

M+W時代

両性転倒期

ともいう。Mはマン(男)、Wはウーマン(女)。最近の女の子はザンギリ頭に長ズボン、ローヒルと、後から見たのはちよつと性別がつかない。男も腕輪に色シャツと女性化し、男女ともゴツチャの感。

マンボ・ブーム(Mambo boom)

キューバ生れの若い

ピアノリスト、ダマソ・ペレス・プラドがアフリカ土人のリズムを音楽化し、キューバ民謡の中にある言葉をとつてマ

ンボと名ずけた。官能的なりズムで、踊りも本能的な身振り

高級ハイファイ族

音楽

ンボと名ずけた。官能的なりズムで、踊りも本能的な身振り

を基調にした簡単なもの。戦後日本の新世代にうけてたちまちブームになつた。ついにはマンボ・スタイルというモードまで出現、以下、マンボ族、マンボ・ノイローゼなどを引くるめてマンボ・ブームと称する。

音を聞かねば承知しない階級。メニューヒン、レビなど世界的名手の来日や音響効果のすぐれたホールができるにおよんで楽器の生の音を聞く欲望が盛んになり、更に録音装置もハイ・ファイ化（音楽用語参照）されたため、この種族が俄然ふえた。

ソーラー族 ミーちゃんハーちゃんをミーハー族というが、これはミーハーよりやや程度が上の層を指している。ドレミファの次はソラだからというしやれである。

メロマニア メロドラマ気狂いの略。「君の名は」「花のゆくえ」など男女悲恋の物語りに夢中になる連中。

最低ネ 風俗用語のピカ一である。「下品だ」「程度が低い」などをいう女性語。舟橋聖一氏愛用。

セミテン セミの天麩羅ではない。皇太子に友人がつけた綽名。その前は浅黒く丸丸と肥えていたのでチャブ（茶色の豚）だった。どちら

をよばれてもプリンスはハイと返事をなさるとの由。左翼間ではチビ天と呼び奉っている。セミは準、半の意。

第二応援団 野球の選手が試合中気になるのは女、子供の嬌声だそうで、このため六大学野球でも戦術として附属小学校や女子学生を動員してキャーキャーやらせている。立大が最も多く、立教女学院の二百名が観覧席に陣取り、続いて慶応幼稚舎も有名。これを第二応援団としているが、早大、明大はとくに仕立てることをせず、バンカラ一本槍の態である。

たべもの・のみもの

第二磷酸ソーダ Na_2O_2

HPO_4 酸性磷酸ソーダの一種でナトリウム、水素、磷酸の化合物。磷酸石から抽出するので砒素が入るのが常識だが、専ら工業用としてポイラーなどの洗剤に向く。乳製品の質を季節的に一定させるための緩衝剤としては硫化水素

をふき込んで無砒素にしたものを使う。森永乳業MF印のヒソ入りミルク事件は工業用と食品用の誤用から起つた。

キルシユ酒 アルザスローレンス地方の野性の桜桃を蒸溜したもので糖味なく無色透明。チェリブランデーの一種で四五度のアルコール分がある。いわば口直しものだが、これは最近、銀座文士の間に流行つてる。

九円牛乳 伊勢崎市（群馬県）の酪農協同組合がはじめた安売運動。買入値四円五〇銭、加工処理代二円。配達およびビン代で二円計八円五〇銭でやつていける由。主婦連のは十円牛乳。

業務用米 駅弁、外食券食堂などの米飯は本来なら食管法による配給米だが、いまではヤミ米が公然。政府は一つにはヤミ米撲滅、他には食管特別会計の赤字埋めとして業務用米を売り出すことにした。一升が一三〇円でヤミ米より安く、これを一二〇万石

売ることによつて三九億円をもうけようというわけ。米は準内地米、優秀外米である。

ジュース・スタンド 三〇年夏からの新商売。おでん屋並みの屋台にミキサー一台をそなえつけ果物をたちまちジュース化してのませる。一杯二〇円の安直。元祖は大阪である。

レクリエーション

スマートボール 連発式禁止で下火となつたパチンコの後をうけて登場。昔のコリントゲームを大きくしたものだ。パチンコのスリルとサスペンスに及ばざること遠く穴に入る確率もグンと落ちるとかでそう繁昌していない。

敗戦打者 プロ野球にいう「敗戦投手」に対するもの。野球狂の井上友一郎の発案というが、とにかくあのときヒットを打つていたら負けなかつたのに、凡打や三振に終わった打者をいう。

アフタースキー スキー

の後でストロヴを囲んでの四方山話は楽しいが、最近、一滑りもしないでこればかりやる若人がふえた。したがって服装も華美、化粧もおよそ山遊びとは縁遠いようだが、実は山小屋の宿泊代が安いのがツケ目。「アフターにするわ」といえば、滑らず、ひねもすシャベリまぐること。

民謡温泉 民謡酒場と同断である。一名をデフレ温泉とも映画の題名をもじつて「たそがれ温泉」ともいう。公衆浴場の二階に舞台をしつらえ、三流歌手を呼んで歌わせる。もちろん一風呂あびてこの席で三〇円のラーメンを食い、骨休みをするという寸法。風呂には何回入つてもよい。料金は百円。

ジェット・コースター (Jet Coaster) コースターは滑降機。遊園地で豆電車がすごいスピードで起伏のあるレールを突走る仕掛で、シネラマでへきとう観客をおどろかすのがこれである。東京の

後樂園にできたのが本格的で軌道延べ五五〇米。最高時速五〇軒。もちろんアメリカの模倣である。

貸アクアラング アクアラングは酸素の入つたボンベと海女のつける水中眼鏡とで一組になつてゐる。一口にいえば海底探険用具。「青い大陸」というイタリヤ映画の水中実写の影響もあつて三〇年夏には千葉の勝山、神奈川の葉山海岸でこれを借りた海底探険兼銛突き遊びがあらわれた。買えば一〇万円前後だそれで防衛庁、大学、水産試験所、漁業組合の需要も盛んになつたという。

スウイミング・グローブ (Swimming glove) 「海底の黄金」「青い大陸」など一連の水中映画で紹介されたもので、手と足先につけるカッパの水カキのようなもの。水をキャッチできるので浮力を増し水中の行動を自由にすることができる。これも海水浴場での貸貸がはじまつた。

教育と学生

六・三・四制 新学制は六・三・三だから高校の年限が一年ながい、つまり高校生が入つてゐるわけ。映画の題名をモジつて「高校四年」というよび方もある。現在大学への入学には浪人組が多く東大六一%一橋大六七%京大五三%と圧倒的になり、有名高校では補習科というのまで設けて浪人を半ば公式化してゐる。三〇年一月半ば、文部省が補習科廢止の通達を出して俄然モメ出した。

パートタイ先生 パートタイム即ち時間ぎめ講師。もつと具体的には女教員がお産で休んでいる間を補充する先生のこと。女子労働者の産休は労働基準法では四週間となつてゐるが、日教組と文部省の間ではこれが一六週と四倍。また現代女教師の数は一九万でこのうち年に一万が子を産む。日教組の試算によるとこの間を補充するには六千五百

人の先生と四億円の経費がかかるそうだ。

ワンダーフォーゲル (Wander Vogel 独) 渡り鳥。ドイツでは青年男女がグループをつくり山野を跋涉して健康と団結心を固めてゐる、その運動。日本でも最近学生の間には寺社を宿泊所に泊り歩く旅行が行われ、この名で呼ばれてゐる。なお、外国では学問も日本のように一つの大学に固定せず、法律は××大学、文学は〇〇大学と、学校を渡つて歩くのもワンダーフォーゲルという。

ユース・ホステル (Youth Hostel) ワンダーフォーゲルに似た運動を、米英ではこう呼んでゐる。原意は青少年宿舎である。

学生サナトリウム 現在日本にいる結核学生は三万人だが、学生間でこのサナトリウムをつくらうと日本学生奉仕団(WUS)が母体となり、三年がかりでようやく川崎市生田にベッド数二七のものを

つくつた。元祖はスイスの国際大学。このほか中共、ギリシャ、フランスが充実にしており、日本のばあいも所要資金千万円のうちほとんどが外国大学(二〇カ国)の応援で賄われた。

半学生 学生ではあるが反面立派な社会人として通用している連中のこと。主にダンス教師、俳優(石浜朗)、会社員等がそれ。アルバイト学生とは収入上、区別される。

修学旅行協議会 相模湖、紫雲丸と相次ぐ惨事をひきおこした修学旅行の事故防止を目的に文部省が設置したもので、修学旅行の意義の徹底、同計画の再検討の基準を協議する。

文壇メモ

平和論論争 欧米を廻つてきた福田恆存が「平和論の進め方についての疑問」という題で文化人や平和論のもつ非行動性を叩いたのがはじまり。清水幾太郎、中島健蔵ら

がこれに反ぱつして一部インテリを面白がらせた。

新季題 俳句の季題は限られていたが、世の流れとともにその季節になると必ず思いつくものが出来てくる。それを新季題という。たとえば原爆記念日、パリイ祭、ポートルイスからスイートピー、シクラメンなど、日本化した花もふくまれる。

人工恋愛 三島由紀夫の小説「沈める滝」で使われたもの。主人公は人工ダムの技師。彼は恋愛も人間の自然本能としてでなしに意志によって感情を設計し、人生の愉悦道具として作れるという観念をもつ。いかにも近代インテリらしい考え方。

電報文学 電文の用件を文学的に表現して打つことがはやつている。開祖は石川啄木「ヒイチニチトクルシクナリヌアタマイタシキミノタスケラマツノミトナリヌ」で、高浜虚子、火野葦平が常連。

東郷青児の発案ではコイデン(恋文を電報で打つ)という手もある。

芸術院賞 芸術院が主催、選衡。とくに作品についての表彰ではなく芸術活動に永年携つてきた人を選んで表彰する。三〇年度は第一一回で恩賜賞に杉浦非水、坪田讓治など一〇氏がえらばれた。

第二標準語 東京弁が標準語ヅラをするのはおかしい、エゲツナイ、ヤヤコシイ、シンDOIなどだといふ一般化しているものもあるから大阪弁だつて標準語だ、歴史はむしろ大阪弁の方が古いという主張がある。これを第二標準語という。

出版界の話題

不良文化財 チャンバラやあくどい冒険もの、さらにワイセツな写真や図書を指している。事の起りは東京の母親たちがこれらの文書が子どもに及ぼす影響をおそれ、こゝろ名づけて焼いたことにはじ

まるが、図書にかぎらず児童心理に好ましくない玩具(ピストル、短剣)などもこれに入るようになった。

海賊版 世界的名著や大なる自然科学書は版權が高いところから、これを無断で引き写し会員配布にする方法がある。この方法によるものを海賊版というが、香港、上海あたりの密貿易船が手をつけはじめたのでこの名前がある。日本でも工業図書や性書を中心に社会の裏側で繁昌している。

青年歌集 関鑑子の編集した世界でもつともよく歌われている歌曲の本。これがベストセラーになり、東大、早大では一日に百部売れるそう。会社、工場、学校の休みどきの合唱には大がいがこれだ。会社、工場、学校の休みどきの合唱には大がいがこれだ。会社、工場、学校の休みどきの合唱には大がいがこれだ。会社、工場、学校の休みどきの合唱には大がいがこれだ。